

第 59 回シェイクスピア学会研究発表ならびにセミナー・メンバー募集要項

研究発表

【応募要項】（締め切り日にご注意ください。応募方法は電子メールです。）

1. 一般研究とし、テーマを問いません。ただし、未発表のものに限ります。
2. 応募者は研究発表概略(和文 2,000～4,000 字、または英文 800～1,500 語)を、WORD またはリッチテキスト形式のファイル (A4 用紙縦設定の横書) にして電子メールに添付してください。
3. 学会プログラム資料原稿用に、研究発表要旨(和文 400 字、または英文 150 語以内)を、WORD またはリッチテキスト形式のファイル (A4 用紙縦設定の横書) にして電子メールに添付してください。
4. 簡単な経歴書を、WORD またはリッチテキスト形式のファイル (A4 用紙縦設定の横書) にして電子メールに添付してください。
5. 応募者の氏名、所属・肩書き、連絡先住所・電話番号・電子メールアドレスを電子メール本文に明記し、上記 2.「発表概略」3.「要旨」4.「経歴書」の計 3 点のファイルを添付して、日本シェイクスピア協会(学会担当)宛に送信してください。なお、以上 2～4 の書類はそれぞれ独立のファイルとして添付してください。
6. 応募電子メールの送信先を日本シェイクスピア協会(学会担当) ssj-conference@nifty.com とし、件名に「研究発表応募」と明記してください。
7. 締め切りは **2020年6月13日(土) 正午**です。
8. 審査結果は 7 月中旬に応募者あてに通知いたします。
9. 日本シェイクスピア協会会員であること(=当該年度の会費納入者)が応募の資格です。

セミナー

学会 2 日目に以下の 3 つのセミナーを企画しました。

【応募要項】（締め切り日にご注意下さい。応募方法は電子メールです。）

1. 下記セミナーのうち 1 つのみ応募できます(応募は会員に限ります)。
2. ご希望のセミナーテーマを明記のうえ、ご発言の「主旨」を、日本語 200 字以内(または英語 100～150 語)にまとめ、WORD またはリッチテキスト形式のファイル (A4 用紙縦設定の横書) にして電子メールに添付してください。また「氏名・所属・肩書き・連絡先住所・電話番号・電子メールアドレス」を電子メール本文に明記してください。
3. 応募電子メールの送信先を日本シェイクスピア協会(学会担当) ssj-conference@nifty.com とし、件名に「セミナーメンバー応募」と明記してください。
4. 応募締切は **2020年5月7日(木) 正午**です。
5. 各セミナーとも、コーディネイターと協議のうえ、メンバーの数を限ることがあります(コーディネイターは会員外のゲストを 1 名入れることができます)。
6. 応募の採否については 6 月下旬までに本人宛に通知します。
7. セミナー・メンバーに決定した方は、研究発表に重ねて応募することはできませんので、ご注意ください。

さい。

なお、大学院生と若手研究者のための「シェイクスピア・ワークショップ」は2016年度の第11回をもって終了し、2017年度よりシェイクスピア学会セミナーに統合されました。

新しいセミナーのメンバー募集は、学生・若手を含め、より広く会員に対して開かれたものとなります。修士課程の大学院生も含めて、学生会員の皆様にもぜひ奮ってご応募いただきたく存じます。

各セミナーの①コーディネーター、②テーマ、③指針は次の通りです。

《セミナー1》

- ① 中野春夫氏（学習院大学教授）・吉原ゆかり氏（筑波大学准教授）
- ② 「シェイクスピアと観客参加型のイベント」
- ③

シェイクスピア受容の一大特徴は、いつの時代でもシェイクスピア劇とその楽しみ方をその時代のライフスタイルや美学に合わせてカスタマイズしてきたことです。シェイクスピア受容の代名詞といえば「偶像崇拜化（bardolatry）」ですが、シェイクスピアの一強時代に貢献してきたのは研究者や出版業者だけではありません。むしろ Shakespeare Ladies Club（1736）のような女性を含む読者層の爆発的な広まりと、Shakespeare Jubilee（1769）など、新たなファン参加型娯楽コンテンツの誕生が最大の要因と言って過言ではありません。このセミナーは受容する側が劇作家シェイクスピアとその劇作品を作り変え、面白くしてきた現象に注目します。シェイクスピア記念祭、ストラットフォードやヴェローナなど文学ツアー（聖地巡礼）、マンガ、映画など異種メディアの翻案作品など、娯楽文化におけるシェイクスピア劇の新たな受容に関心がある方の参加を大歓迎します。

《セミナー2》

- ① 松尾江津子氏（鈴鹿工業高等専門学校准教授）
- ② 初期近代イングランドをクィアに読む・観る・考える（仮題）
- ③

本セミナーは、初期近代イングランドのセクシュアリティをテーマとします。アラン・ブレイ、ブルース・スミス、ジョナサン・ゴールドバーグ、ヴァレリー・トラウブラによって初期近代イングランドの同性愛批評が目覚ましい発展を見た1980年代から90年代、現代のセクシュアリティ研究やクィア批評の直接の理論的礎が築かれたこの時期から約30年経った今、セクシュアリティ研究はどのような展開をみせているのか、研究動向を確認しながら、多角的にこの時代のセクシュアリティの様相をとらえたいと考えています。

扱う媒体は上演を含めた演劇、それもシェイクスピアに限らず初期近代の演劇、詩、散文等にジャンルを広げたいと思います。上演では、ロンドングローブ座エマ・ライス演出『夏

『夜の夢』(2016)や、ブリッジシアターでのニコラス・ハイトナー演出(2019)の同作などが記憶に新しいですが、実践を紹介するのみならず、作品解釈として、理論として、この分野の研究をどう進めていくのか考えたいと思います。イングランドには当時の裁判記録などの実証的資料が少ないことが、とくに女同士のセクシュアリティ研究を阻む要因となってきましたが、だからこそ、文学においてその軌跡をたどることに意味があると考えています。

《セミナー3》

① 桑山智成氏 (京都大学准教授)

ゲスト・コメンテーター: Paul Prescott 氏 (University of Warwick, Associate Professor)

② 「『マクベス』を読む」

③

『マクベス』は原・戯曲テキストの上演だけでなく、改作上演、絵画、オペラ、映画、小説などの翻案や翻訳を通して、17世紀から現代に至るまで連綿と受容されてきました。本セミナーでは『マクベス』やこうした派生作品の特質に迫り、さらにこれらの作品がそれぞれの社会にどのように訴えたのか、あるいは現代社会にもどのように訴え得るのか考察したいと思います。発表者は戯曲テキスト、編集、上演、翻案、翻訳など、任意のテーマを検討し(もちろん複数のテーマが組み合わさっていても構いません)、当日はウォリック大学のポール・プレスコット氏(ローリー・キニア主演ナショナルシアター『マクベス』公演のテキスト編集を担当)をゲストコメンテーターに迎え、会場全体で『マクベス』とその派生作品に関する理解を深めたいと思います。このセミナーはメンバーの多くに大学院生(修士課程を含む)や若手研究者を想定しており、応募時の要旨や発表原稿は英語でも日本語でも構いません。ただし日本語の場合は発表原稿とともに長めの英語要旨も準備してください。当日のディスカッションは主に英語で行う予定です。多くのみなさんのご参加をお待ちしています。